

〈外国語活動〉

外国語活動におけるコミュニケーション能力の素地を養う工夫

—音声や基本的な表現に慣れ親しむ活動を中心に—

沖縄市立宮里小学校 教諭 赤 嶺 淳

I テーマ設定の理由

経済、社会等のグローバル化が進展する中、広い視野を持ち、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成することが一層求められている。このような状況の中、英語は母語の異なる人々の間をつなぐ国際的共通語として最も中心的な役割を果たしており、子供たちが21世紀を生き抜くためには、国際的共通語としての英語によるコミュニケーション能力を身に付けることが不可欠である。このことは、子供たちの将来のためにも、我が国の一層の発展のためにも重要な課題となっている。

平成20年1月の中央教育審議会答申を受けて、平成23年度、文部科学省は新学習指導要領において、第五学年及び第六学年に週1コマ（年間35単位時間）の外国語活動を必修化とした。沖縄県においては平成23年9月、「英語立県沖縄」を宣言し、県教育委員会は英語教育の指針を示した。小学校においては、国際理解教育の充実を図り、コミュニケーションの手段としての外国語（英語）に慣れ親しませ、外国語（英語）を用いて、コミュニケーションを図る楽しさを体験させるとある。沖縄市においては、文部科学省の「教育課程特例校制度」内の「小学校低・中学年における英語教育」を適用申請し、平成23年4月からの実施に至っている。

本学級の児童は、外国語活動の時間を楽しみにしている。主な理由として、「ゲーム」を挙げる児童が多数である。しかし勝敗に拘り、ゲームありきで授業が終了し、指導内容に十分慣れ親しんでいるとは言えない。現状として担任やALTと学習した英語を使って、積極的にコミュニケーションをとっている児童は少数である。授業で学習した英語を使って簡単なコミュニケーションができる素地を養うことが課題である。

そこで、英語による音声や基本的な表現に十分に慣れ親しませる活動の工夫が必要である。指導の改善として、三構成法（新出単語練習、状況設定と変化を伴った繰り返し練習、状況下でのアクティビティ）を取り入れていくことで、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることに繋がると思われる。教室には様々な児童がいることを踏まえ、「わかる！」「楽しい！」「話せた！」と思えるような外国語活動を目指すことで課題に迫りたい。

本研究では、英語による音声や基本的な表現に慣れ親しませる場において、三構成法を取り入れ、リズム・テンポよく変化をつけて指導を行うことによって、児童の英語によるコミュニケーション能力の素地を養うことができると考え、本テーマを設定した。

II 目指す児童像

- 1 外国語と日本語の音の違いに気づき理解を深める児童
- 2 積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童
- 3 外国語の基本的な表現に慣れ親しむ児童

III 研究目標

英語によるコミュニケーション能力の素地を養うために、授業の組み立て方や指導の工夫を取り入れ、音声や基本的な表現に慣れ親しむ活動を通して実践的に検証する。

IV 研究仮説

1 基本仮説

音声や基本的な表現に慣れ親しませる場面において、授業の組み立て方や指導の工夫を行うことに

より、英語によるコミュニケーション能力の素地を養うことができるであろう。

2 具体仮説

- (1) 教師の指導の場において、リズム・テンポ良く授業を進め、パーツの意識、スモールステップやデモンストレーション等、細かな手立てに配慮することによって、意欲的に楽しく授業に参加することができるであろう。
- (2) 音声や基本的な表現に慣れ親しむ活動において、三構成法を取り入れることで、英語によるコミュニケーション能力の素地を養うことができるであろう。

3 検証計画

事前に前学年までの英語活動アンケートを実施。事後に同内容アンケートを行い選択式、記述式の二種類を実施し結果から児童の変容をみとる。指導内容に十分慣れ親しんだかをみるために、リスニングチェックや担任・ALTによる簡単な口頭チェックを行う。検証授業当日に、参観者にアンケートや一覧表を配布し、仮説のみに絞って記録して頂き、内容や項目集計から分析、考察する。

V 研究構想図

次ページ参照

VI 理論研究

1 外国語活動の指導について

(1) 小学校学習指導要領外国語活動編

小学校学習指導要領外国語活動の目標は、表1と示されている。文末の主節に注目してみると小学校の場合、「コミュニケーション能力の素地を養う」である。素地とは、広辞苑によると「素地＝土台・基礎」とある。こう考えると「コミュニケーション能力の土台を養う」と考えられる。中学校目標の文末主節は「コミュニケーション能力の基礎を養う」高校では「コミュニケーション能力を養う」とある。校種が上がっていくごとに目標の変化が見られ、系統的に指導していくことで将来的に英語運用能力が高まっていくと考える。

表1 外国語活動目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

学習指導要領によると、3つの柱が記され、これらをすべて「外国語を通じて」行うことが明記されている(表2)。体験的に理解させ統合的に指導していくことが小学校では必要である。下記①の項目では、外国語を通じて広い世界を知り自分達が住む国や地域、文化等の理解を深めていく。そうすることで世界の国々の言語の違いに気づき、多様な文化に触れていきたいという子供達の意欲喚起にも繋がるだろう。子供達の周りには様々な外国人が存在する。ALTの存在も子供達にとっては大きい。授業を通して触れ合っていきながらALTの出身国の言語や文化に興味関心が高まっていき、自国の言語や文化との違いや似ている面等にも目を向けさせていくことができるであろう。また外国語と日本語との音の違いにも気づかせていく。そのためにも体験的に理解を深めていくことが大切である。同時にALTと積極的にコミュニケーションしたい気持ちが子供達にも生じてくると考える。

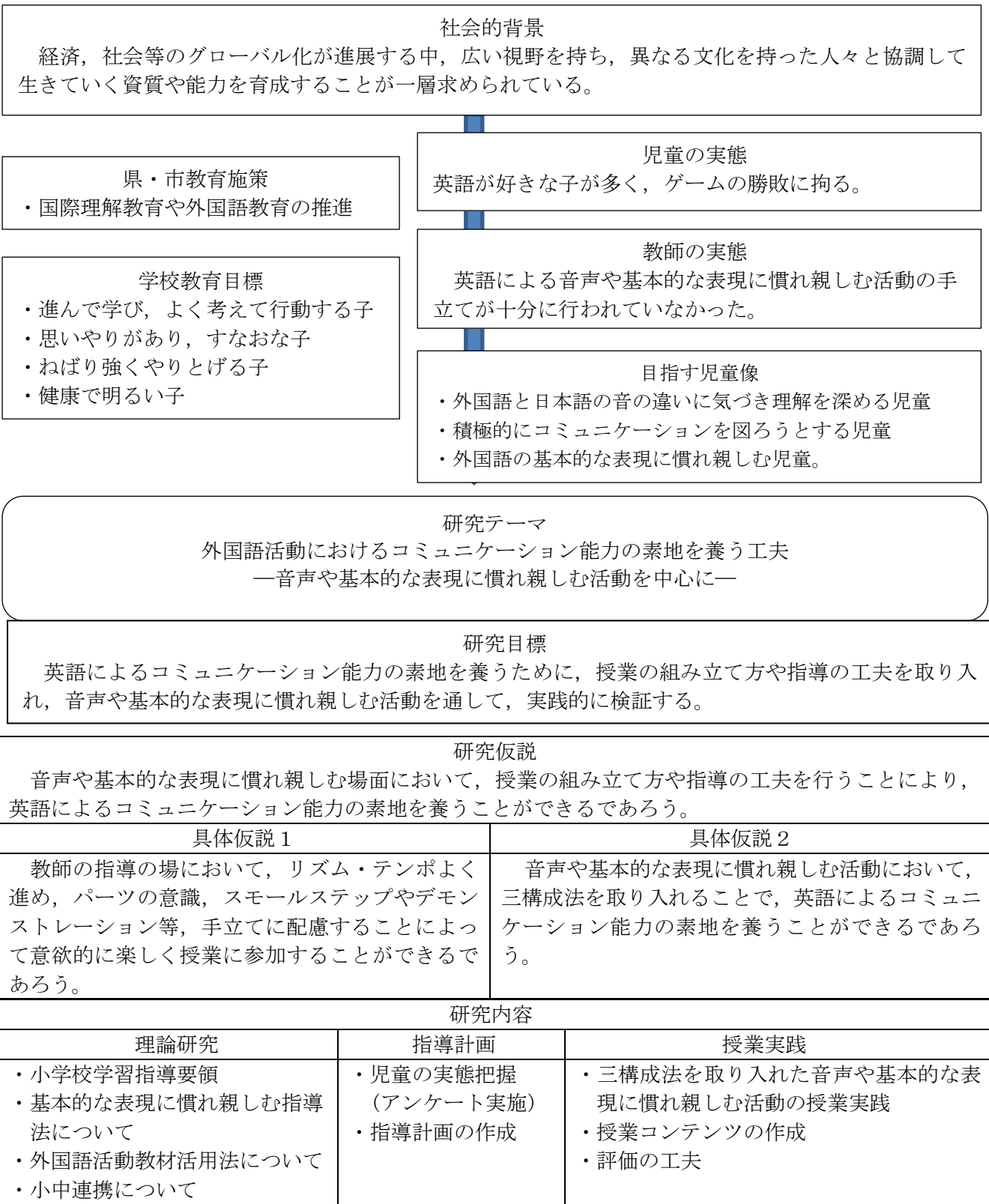
表2 3つの柱

- ① 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ③ 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

(2) 外国語活動におけるコミュニケーションについて

積極的にコミュニケーションを図ることができるように、学習指導要領には3つの指導内容が設

V 研究構想図



検証授業の計画・実践・分析・考察



研究のまとめ・研究成果と今後の課題

表 3 3つの指導内容

- (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
- (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

定されているとある(表3)。子供達の気づきや、知的好奇心を大切にしながら、楽しかっただけで終わる授業ではなく、英語を使いながら相手と自分の気持ちを伝え合う力を育てたい。そのためには子供達のコミュニケーション能力を高めていく必要がある。コミュニケーションの解釈にはさまざまなあるが、一般的には人間同士の「やりとり」と考える。相手に尋ねようとしたり答えようとしたりする。自分の思いをジェスチャー等も交えて相手に伝え合い、お互いの考えを知ろうとする。それにはコミュニケーションが必要になる。英語でコミュニケーションできるということは、日常生活において英語を話す機会は少ないが、話す場面があれば自然に発話する状態である。そのためには、ねらいを持った活動を年間指導計画に取り入れていき、英語の音声や基本的な表現に十分に慣れ親しませる授業を行っていく必要がある。また、場面に応じたコミュニケーションも大切になってくるだろう。例えば“Thank you”を使う場面で、笑顔で嬉しく言えば、言われた方も嬉しくなる。反対に無愛想な表情で語気を荒げた言い方だと、相手には“Thank you”の気持ちが伝わらない。コミュニケーションは人と人とのつながり、感情のやりとりとも考えるので心の通い合いを合わせて大切にしていきたい。

2 基本的な表現に慣れ親しませる指導法について

人類の言葉の獲得は文字よりも音声が先であり幼児が母国語を習得する過程とほぼ同様と考える。向山浩子(2007)が提唱している「三構成法」もそれに準じ、「聞く」「話す」が「読む」「書く」より先行し、聞く話す力の育成を目指している。これは、子供達に基本的な表現に慣れ親しませることができる一つの指導方法であると考えた。具体的に以下の三段階指導で行われる。

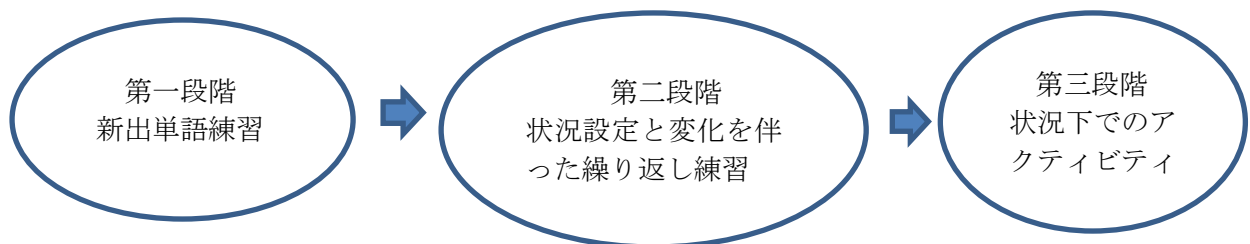


図1 三構成法の流れ

(1) 新出単語練習について

学習指導要領(外国語活動)の三つの柱の一つである「③外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れしなせしめる」とある。学習で出てくる新出単語をすぐに使用することは子供達の負担が考えられる。慣れ親しませる方法として、絵カードやフラッシュカードで意味把握を行う。フラッシュカードは、手早くめくって子供達に示し、音声と絵を目や耳にインプットさせ同時にアウトプットさせていく。ここで重要となるのが、山鳥重(2002)は「名前をつけるというのは、記憶心像に音声記号を貼り付ける働きです。名前にはこの掴まえがたい記憶心像を掴まえる働きがあります。それ自体は不安定ですが、名前によって心像が安定するのです。」と主張している。限られた情報のみを示し概念化された絵のフラッシュカードを提示し、子供達の単語に慣れ親しませる一助としたい。

(2) 状況設定と変化を伴った繰り返し練習について

① 状況設定

コミュニケーションを図る際、場面や環境、状況に応じたやりとり等が必要になるであろう。学習内容がどのような状況で使われるのか、子供達に意味理解させていくことが大切である。そうすることでそこで状況設定という手法を用いたい。状況設定は、絵やイラストや具体物、ジェスチャー、映像、パペット、寸劇などによって学習内容の状況を明らかにして、日本語に訳せずとも対話の意味やそれを使用する場面を一目で理解させることである。S・J・ブレイクモア(2006)は「短期記憶はその場での繰り返しのみに頼らざるに、その容量は限られている。(中略)

対照的に意味のある情報は自動的に貯蔵されて、もっとも長い間記憶される」とある。よって状況設定で意味を理解させていくことで外国語活動の学習が容易になり、学習指導要領（外国語活動）の三つの柱の一つである「②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る」にも繋がると考える。状況設定は「この対話しかあり得ない」というくらいに条件を限定し、余分な情報は省くことで効果が高まる。状況設定は、教師が子供達の前で立ったまま単なるA対Bの対話文の発音をして見せるデモンストレーションではない。それでは音声は示しても意味を示していることにならないからである。「対話の意味と音声」両方を示すものであろう。

② 変化を伴った繰り返し練習について

小学校における子供達の柔軟な適応力を生かして、特に「聞くこと」「話すこと」を通して、外国語の音声や表現に慣れ親しませることが大切である。状況設定で学習内容や対話の意味を理解させたうえで、十分に慣れ親しませるためにリズムとテンポを意識しながら繰り返し練習を行う。例えば、かけ算九九や漢字の読み書き等、何度も唱え書き慣れ親しんでいくことで身につけていく。山鳥重は「わかるとは運動化できるということです。話すことも、表現活動はすべて運動です（中略）わかっていることは運動に変換出来ませんが、わかっていることは変換出来ません」と主張する。話すことや学習内容の対話等は運動であると考えられるのではないかと。話すことがわかる（慣れ親しむ）ためには、聞くことだけでなく十分に発話練習することによりわかるようになることを考える。このことから外国語活動で学習する表現内容も一定の練習が求められるだろう。基本的な表現に慣れ親しむには、子供達自身が声を出すことが出発点である。子供達の実態や様子等も配慮しながら、変化を伴った口頭繰り返し練習を行うことにより、オウム返しや単調な反復練習にならず、子供達も飽きることなく楽しく表現に慣れ親しむ外国語活動の学習を行っていくことが必要である。

③ 状況下でのアクティビティ

外国語活動の目標を踏まえ、コミュニケーションの指導内容を次のように設定している（表4）。

表4 コミュニケーション指導内容

〔第5学年及び第6学年〕

- 1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
 - (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
 - (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

子供達は自分や友達等の感情や思いを表現したり、受け止めたりする表現力や理解力が苦手な子もいる。こうした子供達が相手との関わりの中で円滑な関係を築いていくためには、コミュニケーション能力を身につけていく。そこである程度学習内容に慣れ親しんだ段階で、実際にアクティビティを行う必要がある。ここでのアクティビティとは、用意された擬似状況での場面練習である。その際、映像や画像、パペット、担任とALTで寸劇等をしてデモンストレーションを示す。例えば、腕時計を忘れ相手に時刻を尋ねる。買い物をしたり、道を尋ねる等実際の状況に近い形を用意し、練習した学習内容や対話を活用させる。また向山は「状況が設定された中で、アクティビティが行われるのは、ストーリーの中に入って、会話が実際に行われたかのように出来事化することであるが、情動を伴うように設定されるとより記憶に留めやすい」と主張する。感情を伴った状況設定を行うとアクティビティがより活発になり、子供達はより楽しく体験的に学習内容に慣れ親しむことができるであろう。

3 外国語活動教材活用について

(1) 「Hi, friends」 ＋ 三構成法の授業

英語ノートに代わる外国語活動教「Hi, friends」が平成23年度より文部科学省から配布されている。英語ノートと比較して幾つかの相違点がある（表5）。ページ数が減り書き込みが減ったことは、聞き話す活動をより一層行うことが、「Hi, friends」の指導書にも発話の重要性が記載されている（表6）。そこで、「Hi, friends」を活用して音声や基本的な表現に慣れ親しませる活動の際に、三構成

法を取り入れた授業を行っていく。「Hi, friends」は、三十五時間を八つの単元に分け、それぞれ四

表5 Hi friends との相違点

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① ページ数が三分の二に減る。② lesson が九から八に減る。③ タイトルの日本語訳が無くなる。④ 書き込むアクティビティが減る。⑤ 活動の作業指示が短くなる。⑥ イラストが中学英語の教科書のイメージである。 |
|---|

表6 Hi friends 指導書より抜粋

「質問部分を児童全員で言い、答えの部分を代表児童が言うようにしてもよい（P12）」 「建物の言い方を繰り返し聞いたり言ったりして、慣れ親しむことがねらい（P14）」 「国名の言い方，“Where do you want to go?” “I want to go to ～.” の表現に十分慣れ親しんでおく必要がある」

時間程度の指導計画になっている。効果的に指導するために45分間の授業の組み立て方を考えた。

①前時の復習 ②三構成法 ③Hi, friends のアクティビティという流れである。

4 小中連携について

子供達は、二年間外国語活動を学習し中学校へ進学する。小学校では、小・中・高を通じた外国語活動の充実のための土台作りであると同時に、中学校外国語科にうまく繋げていくことが大切である。今年度文科省より配布されたHifriendsに出てくる英文は、中学校英語教科書とも関連性がある。Hi friends の学習内容には様々なアクティビティがあり、子供達が作成する作品等もその一つである。それらを中学校に引き継ぎ、関連のある学習時に提示することで生徒たちの意欲喚起に繋がる。又、授業時の英語による挨拶も子供達は定着しているので、引き続き中学校でも実施することでより導入がスムーズに行うことができるであろう。授業における小中連携カリキュラム作成をはじめ、外国語活動で行ってきた、聞く・話す活動を踏まえて、音声指導や文字指導の在り方に十分配慮することが必要であると考ええる。

VII 研究実践

1 単元名 What～do you like ?

2 単元の目標

- (1) 好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。
- (2) 色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。
- (3) 日本語と英語の音の違いに気付く。

3 単元について

(1) 教材観

新英語ノート「Hi friend 1 Lesson5」の単元は、積極的に好きなものについて尋ねたり答えたりしながら、相手を意識してコミュニケーションを図っていく内容である。ここでは主に“what color do you like?” “I like～.” “What shape do you like” ? “I like～.” の表現に慣れ親しんでいく。日本語と英語の音声の違いに気づかせ、又既習内容も取り入れながら、様々な音声活動やアクティビティ、ゲーム、イラストTシャツ作りの過程を通して単元の目標にせまっていきたい。

(2) 児童観

事前に外国語活動におけるアンケートを実施。約9割の子供たちが英語は楽しいと答えている。主な理由としてゲーム性を挙げた。又「学習した英語で質問し答えることができましたか？」の問いには、約5割の児童ができると答えている。本学級の児童は、これまでALTと共に様々な外国

の文化や習慣、英語によるコミュニケーション等を学習してきた。英語での挨拶や体調を聞きあう活動は9割の児童ができる。高学年にもなると、自分の事ばかりではなく友達の様々な事を知りたがる傾向がある。教室内でもお互いに好きなスポーツ、教科、食べ物、キャラクター、芸能人等を聞きあっている姿をよく見かける。このような現状を踏まえ、“What～do you like?” “I like～.”の音声活動に慣れ親しませたい。また既習事項も取り入れながら活動を行うことにより、学習した表現を繋げて短いやりとり等を行わせることで、英語でのコミュニケーションに慣れ親しむ喜びを味わわせたい。そうすることで、児童の外国語活動におけるコミュニケーションの素地をより一層養うことができると考える。

(3) 指導観

事前アンケートで、約5割の児童が学習した英語内容を尋ねたり答えたりすることが難しい現状を踏まえ、今回三構成法（新出単語練習～状況設定と変化を伴った繰り返し練習&状況下でのアクティビティ～ゲーム）を取り入れて授業を組み立てていく。その際以下の点を意識して指導を行っていききたい。

- ① 読ませず、書かせず、訳させず、聞かせ、真似させ、話させる指導を行っていく。何度も英語による音声を子供達に聞かせ、それから表現に慣れ親しませていく。
- ② 余分な言葉を省き、可能な限り All in English で進める。
 - ア 英語で短い作業指示を出し褒める。
 - イ 訳さずに授業を行うから、子供達の聞く力、話す力が高まっていく。
- ③ 授業は担任主導で行い、ALTとの役割分担をはっきりさせる。
 - ア 状況設定の寸劇等の時
 - イ きれいな発音を聞かせたい時
 - ウ 一人ずつ発音する時に一人ずつ褒める時
 - エ 一人ずつやりとりの際相手になる時
 - オ ゲームの時にグループに入って子供達と一緒に楽しむ時
 - カ アクティビティやペア練習の際、英語を話すことが苦手な子供を支援する等
- ④ リズム・テンポよく進める。
 - ア 指示をゆっくり言う。
 - イ 子供をほめる時もゆっくり言う。
- ⑤ 楽しく、あくまでも楽しく。
- ⑥ 学習内容を日本語訳せず、ALTとのやりとりや画像を使った状況設定により、直感的に理解させる。
- ⑦ 変化のある繰り返し練習で学習内容に慣れ親しむ。
 - ア 子供だけで
 - イ 男女別
 - ウ グループ別
 - エ 列別
 - オ 一人だけ等
- ⑧ パーツで組み立てて行く。
 - ア パーツをさらに細かいミニパーツで組み立てる。
 - イ パーツは繰り返し扱う。
- ⑨ スモールステップで進める。
- ⑩ アクティビティ・ゲームのやり方は、デモンストレーションで理解させる。
- ⑪ ゲームは習ったことを使わせて定着のために行う。
- ⑫ 一度に沢山の英語情報を与えない。
- ⑬ 短い会話を長続きさせるように指導を行う。

⑭ 説明せず、ジェスチャー表現等で意味理解させる。

⑮ 笑顔で授業を行う。

4 本研究とのかかわり

本研究で考えるコミュニケーション能力の素地とは、外国語活動の目標や「英語って楽しい！」と児童らが思えることを前提に、聞き話す活動に慣れさせていくことだと考える。今単元では、児童の実態を踏まえ、好きな色、形、食べ物を英語で相手に尋ねたり答えたりすることで、「分かった！」「聞けた！」「言えた！」等の情感を伴わせたい。音声や基本的な表現に慣れ親しむ活動を通して、小学校段階で聞く・話すことに十分に慣れさせていくことで、中学英語での読み・書きもスムーズにいくものとする。その為に45分の授業の中で三構成法を取り入れた指導や、授業の組み立て方の工夫が必要であるとする。

5 単元の評価規準

観 点	評価規準	「十分満足できる」 状況 (A)	「満足できる」 状況 (B)	「努力を要する」状況 (C) 具体的手立て(☆)
言 語 や 文 化	色や形の英語を話し て日本語と英語 との音の違いに気づ いている。	好きな色や形の英語 表現を通して、日本語 と英語との音の違いに 5個以上気づいている。	好きな色や形の英語 表現を通して、日本語 と英語との音の違いに 1個以上5個以内の範 囲で気づいている。	好きな色や形の英語 表現を通して、日本語と 英語との音の違いに気づ くことが難しい。 ☆ジャパニーズイン グリッシュであえて発 音して見せ、その後、ネ イティブの発音を聞か せ、様子を見る。必要が あれば口形に直接触れ させてみて、動きに注目 し、1個でも気づけたら 笑顔で力強くほめて認 める。
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	好きなものを尋ね たり答えたりしなが ら、Tシャツ作りの活 動を通して、友達と積 極的にコミュニケーションを図っている。	好きな形を尋ねたり 答えたりする表現を使 って、10人以上の友達 と積極的に交流を楽し んでいる。	好きな形を尋ねたり 答えたりする表現を使 って、1人以上10人以 内の友達と積極的に交 流を楽しんでいる。	好きな形を尋ねたり 答えたりする表現を使 って、友達と積極的に交 流を楽しむことが難し い。 ☆担任やALTが積極 的に関わっていき交流 をしていく。少しでも交 流を楽しめたら、笑顔で 力強くほめて認める。
慣 れ 親 し み	色や形、好きなもの は何かを尋ねたり答 えたりして“What do you like?” “What color do you like?” “I like red.” の慣れ親しんでいる。	ペアでのイラストT シャツ作りの活動で、 既習表現も使い、8文 以上の表現を使い慣れ 親しんでいる。	ペアでのイラストT シャツ作りの活動で、 既習表現も使い、2文 以上8文以内の表現を 使い慣れ親しんでい る。	ペアでのイラストT シャツ作りの活動で、2 文の表現を使い慣れ親 しむことが難しい。 ☆教師がゆっくり言 ってあげて、その後にリ ピートさせる。間違えて もいいので、少しでも言 えたら笑顔で力強くほ める。

6 単元の指導計画

時間	1	2	3	4 (本時)
目標	好きな色や形, 食べ物等の英語表現を通して, 日本語と英語との違いに気付くことができる。	“What shape do you like?” “I like ○○.” の表現を発話しながら, 英語の音声やリズムに慣れ親しむことができる。	“What color do you like?” “I like ○○.” の表現を発話しながら, 英語の音声やリズムに慣れ親しむことができ, また友達同士や担任, A L T と積極的に交流を楽しむことができる。	既習の表現も使って, 好きな色や形などのイラストTシャツを作り, 友達にプレゼントし交流を楽しむことができる。
主な活動	子どもたちの大好きな食べ物を中心に, 好き嫌いや種類を尋ねたり答えたりする。	聞き取りクイズ (Hi, friends P18, 19 Let' s listen1)	インタビューゲーム 聞き取りクイズ (Hi, friends P18, 19 Let' s listen2)	友達の絵Tシャツを作ろう (Hi, friends p. 20 let' s play)
言語材料	Do you like ○○? Yes I do. / No I don't. What ○○ do you like? I like ○○. Big or small? Long or short?	What shape do you like? I like ○○. How many○○? ○○circles.	What color do you like? I like ○○. What shape do you like? I like ○○.	What shape do you like? I like ○○. How many○○? ○○circles. What color do you like? “I like ○○.” Big or small? Long or short?

7 本時の指導

(1) 本時の目標 どんな色や形が好きかという表現に慣れ親しむ。

(2) 授業仮説

- ① What～do you like? I like～. を学習する場面において, 三構成法を取り入れて, 授業組み立てや指導の工夫を行うことにより, 音声や基本的な表現に慣れ親しむことができるであろう。
- ② 指導の場において, リズム・テンポを意識し, 教材・教具・情報機器を効果的に使用することによって, 楽しく外国語活動に取り組むことができるであろう。

(3) 本時の展開

学 習 活 動	*指導上の留意点 ○準備 ◎評価の観点 (方法)
1 あいさつ A:Attention please. B:OK A:Let' s Start English Class. B:OK, Let' s Start English Class. 2 体調を聞きあう会話をする。 A:How are you? B:I' m fine. A:How are you? B:I' m hot. A:How are you?	*日直が行う。 *発話したことを褒める。 *数人と会話させ席につかせる。 *自分の体調にあった表現で行う。

B:I' m cold. A:How are you? B:I' m hungry. 3 前時までの復習をする。 4 単語練習 (既習) T:blue C:blue T:blue C:blue T:green C:green T:green C:green T:red C:red T:red C:red T:What color do you like? C:I like~. (blue green red) T:star C:star T:star C:star T:heart C:heart T:heart C:heart T:diamond C:diamond C:diamond C:diamond T:star C:star T:heart C:heart T:diamond C:diamond C:star C:heart C:diamond T:What shape do you like? C:I like ~. (star circle heart) 5 状況設定 - オリジナルTシャツショップの店員, 客との会話をデモで行う (客)B:Hello. T-shirt please. (店員)A:OK. What color do you like? B:I like red. A:Long or Short? B:short. A:What shape do you like? B:I like heart. A:Big or small? B:Small. A:How many hearts? B:two A:Here you are. B:Thank you. 6 表現に慣れ親しむ練習(全体リピート) - 学習内容に慣れ親しませるように, 変化のある 繰り返して行う。 7 アクティビティ (イラストTシャツ作り) - ペアになり型紙を持つ。 - ペアと会話し, 相手が好きなイラストTシャツ をその場で描き渡す。	*言えない子には教師がジェスチャーで表現する。 *音楽を使用しての復習 ○CDラジカセ CD *ALTが行う。 *既習事項なので単語練習から児童に質問を行う。 *リズム・テンポよく行う。 *変化をつけて繰り返し練習する。 (2→1→0) 井戸砂織氏実践 *子供のがんばりを褒める。 ◎色や形, 好きなものは何かを尋ねたり答えたり する “What do you like? “What color do you like? “I like red の表現に慣れ親しんでいるか。 (観察) *ALTとTTで行う。 *オリジナルTシャツショップで, 好きな色とデ ザインのTシャツを作ってもらえることを直感で 理解させる。 *状況が分かるようにゆっくり行う。 *始めはゆっくり, 徐々にスピードをあげて心地 よいリズムで練習できるようにする。 *笑顔で力強くほめる。
--	--

・店員役、客役を交代して行う。 (客)B:Hello. T-shirt please. (店員)A:OK. What color do you like? B:I like red. A:Long or Short? B:short. A:What shape doyou like? B:I like heart. A:Big or small? B:Small. A:How many hearts? B:two A:Here you are. B:Thank you. 8 皆の前で発表 (客)B:Hello. T-shirt please. (店員)A:OK. What color do you like? B:I like red. A:Long or Short? B:short. A:What shape doyou like? B:I like heart. A:Big or small? B:Small. A:How many hearts? B:two A:Here you are. B:Thank you. 9 ゲーム 10 振り返りカードを書く 11 あいさつ (日直)	○Hi friends 1 P20 ○T シャツ型の用紙 ○色鉛筆 *お手本を示し, お隣とペアを作らせ混乱を防ぐ。 *店員役と客役の両方を体験させる。 ☆どの色や形が好きなのかという表現に慣れ親しんでいる。(行動観察) (ワークシート) *忘れて言えない子には, 順番が記されているスマートボードを見させる。 *学習した表現を大きな表現で言えるかゲーム判定する。 *カードを書いた子から指名なし発表を行う。
--	---

8 公開検証授業の様子

既習事項を使って友達同士コミュニケーションを行っている様子。

情報機器で単語練習をリズム・テンポよく行う。

訳さずに, 画像でA L Tと寸劇を行い意味理解を図る。



写真1 既習事項の復習



写真2 新出単語練習



写真3 状況設定

単調な反復練習でなく
変化をつけて行う



写真4 口頭練習

デモンストレーションを
ALTと行い、日本語に訳さ
ずにやり方を提示



写真5 デモンストレーション

デモンストレーショ
ンを元に、ペアを組んで
アクティビティ開始



写真6 アクティビティ

イラストTシャツが完成。その後、皆の前に出てきてアクティビティを行う。既習表

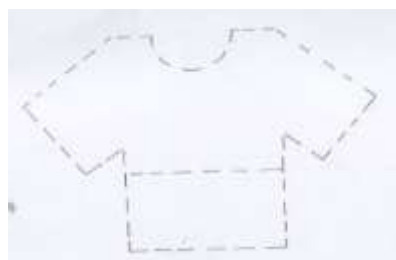


図2 Tシャツ型用紙



図3 完成品



写真7 皆の前で発表

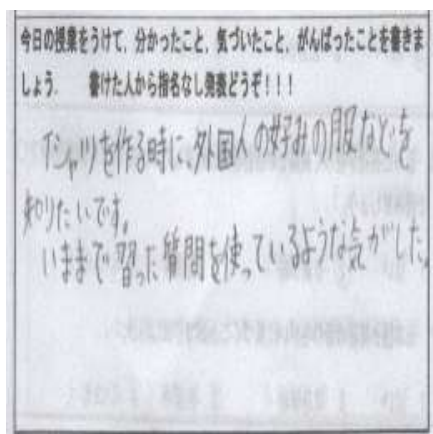


図4 感想

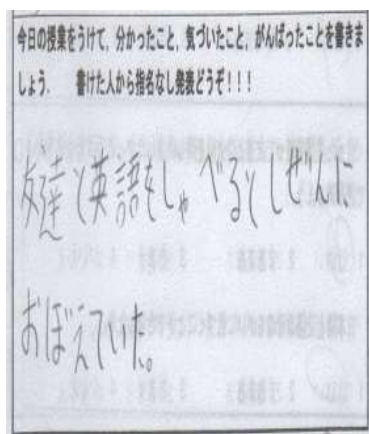


図5 感想

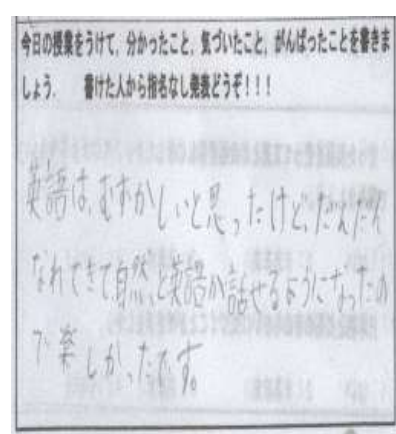


図6 感想

現を使って14文を使って行います。子供達の学習後の感想から、話せる等の記述が読み取れた(図4・5・6)。色や形の表現を尋ねたり答えたりすることに慣れ親しむことができたと考え。

VIII 仮説の検証

本研究では、音声や基本的な表現に慣れ親しむ活動を中心に、外国語活動におけるコミュニケーション能力の素地を養う工夫を図ることができたかを、アンケート結果、子供の様子や感想等から検証していく。

1 具体仮説(1)の検証

教師の指導の場において、リズム・テンポ良く授業を進め、パーツの意識、スモールステップやデモンストレーション等、細かな手立てに配慮することによって、意欲的に楽しく授業に参加することができよう。

具体仮説(1)では、楽しく授業に参加することができたかを考察する。アンケート(図9)からは1英語は楽しく受けられましたかの項目と、様々な細かな手立て(リズム・テンポよく、パーツの意識、スモールステップ)の視点から子供の感想や写真を踏まえ検証する。

(1) リズム・テンポよく

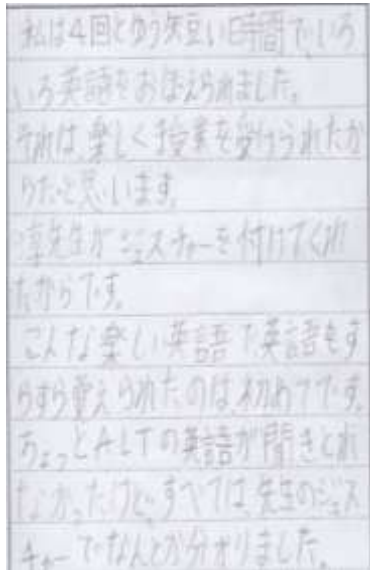


図7 感想

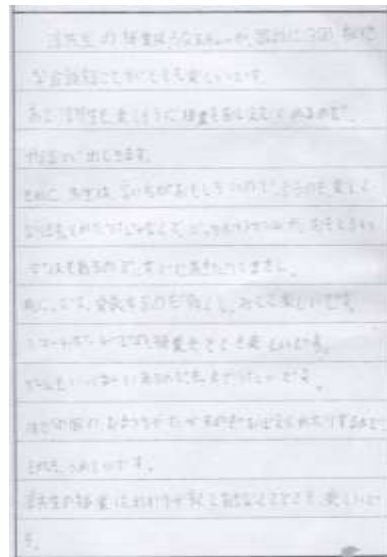


図8 感想



図9 アンケート

指導の流れを止めず、変化のある繰り返して授業を進めていくことで、子供達が活動に集中出来たのではないかと考える。その際、指示や褒め言葉をゆっくり言ったり、言葉を削り緩急をつけリピート練習の時のリズムを意識して行った。教師がジェスチャーを取り入れて指導を行ったことで「先生がジェスチャーをつけてくれたから楽しく授業を受けられた」(図7)、「ジェスチャーや最初に3回小さな会話をするのがとても楽しい」(図8)、等の子供の記述が読み取れることから、間を空けずにリズム・テンポよく展開したことが楽しさにつながったと考える。

(2) パーツの意識

同じ活動を延々と行うと子供達も飽きてくる。そこで45分を短いパーツで組み立てることで、授業にリズム・テンポが生まれ、場面の転換も図ることができ、子供達も飽きずに授業に取り組めたのではないかと考える。今回パーツの例として、既習事項の復習(写真8)、歌、ダンス(写真9)、単語練習、新出表現の練習、アクティビティ(写真10)を行った。



写真8 既習事項の復習



写真9 ダンス



写真10 アクティビティ

(3) スモールステップ

新出表現練習の際、尋ね方・答え方を同時に指導するのではなく、① 答え方を教師に続いて繰り返す。② 教師が尋ね、子供が答える。③ 尋ね方を教師に続いて繰り返す。④ 子供が尋ね、教師が繰り返す等のスモールステップで練習していく。子供の記述から

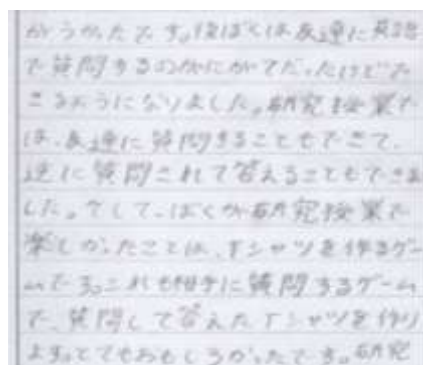


図10 感想

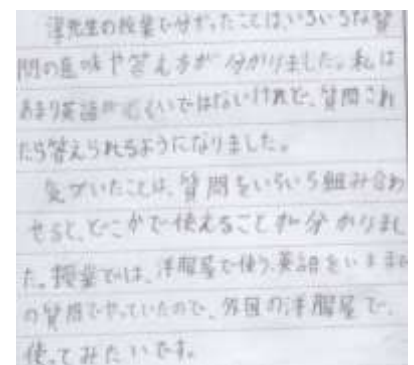


図11 感想

も「友達に質問することもできて逆に答えることもできた」(図10)、「いろいろな質問の意味や答

え方が分かりました」等が読み取れることから、子供達は安心して楽しく練習する中で、少しずつ表現に慣れ親しんでいったのではないかと考える。

(4) アンケート考察

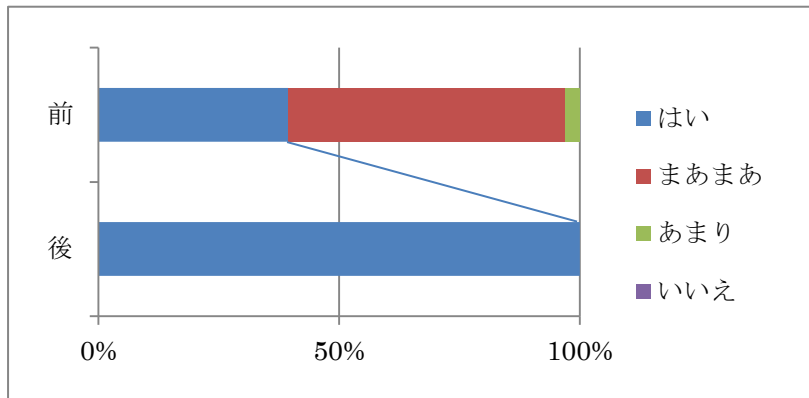


図 12 英語は楽しく受けられましたか

ツの意識、スモールステップ等細かな手立てに配慮することは概ね有効ではないかと判断する。

2 具体仮説 (2) の検証

音声や基本的な表現に慣れ親しむ活動において、三構成法を取り入れることで、英語によるコミュニケーション能力の素地を養うことができるであろう。

具体仮説 (2) では、三構成法は子供達の聞く・話す力を身に付けさせ、積極的なコミュニケーションを行うためのやりとり等に、慣れ親しむ指導法と考えられる。ここでは三構成法やアンケートの 2, 3, 4, 5, 6, 7 の項目と子供の感想や写真から検証する。

(1) 新出単語練習について

情報機器やフラッシュカード等を使い単語練習を行った。一度に沢山の単語を学習することは子供の負担になると考えられるので、4, 5 枚限定で実施した。その際、教師に続いて繰り返すだけでは単調な反復練習になり子供達も飽きてくる。そこで「子供だけで」「男女別」「グループ別」「列ごと」「一人」等変化のある繰り返して組み立てた。このような組み立てで毎時間行うことで子供の記述にもあるように「おぼえにくいものの名前など、たくさんおぼえることができた」(図 14), 等が読み取れ単語に馴染むことができたのではないかと考える。

(2) 状況設定と変化を伴った繰り返し練習

① 状況設定

新出表現を日本語に訳さずに、どのような場面で使用されるか意味理解させることを試みた。その際 ALT と寸劇を行い、情報機器で画像を提示しながら行った。今回イラスト T ショップでの店員と客とのやりとりでオリジナル T シャツを作る設定である。「どういう場面で使うのかがよく分かりました」(図 15) の子供の記述からも分かるように状況説明がなくても、意味理解させることができると考える。

② 変化を伴った繰り返し練習

新出表現の意味理解が行われた後、表現に慣れ親しませるために単調な反復練習では子供達が飽きてくる。そこで変化を伴った練習を行った。教師に続いての練習だけでなく教師と子供で役割を交代してやりとりをしたり、子供同士でも交代してやりとりをしたり、子供同士



図 13 フラッシュカード
(熊本大学教育学部 2005)

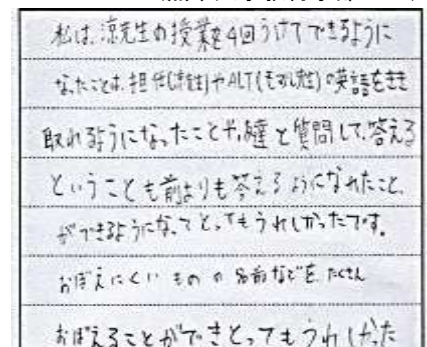


図 14 感想

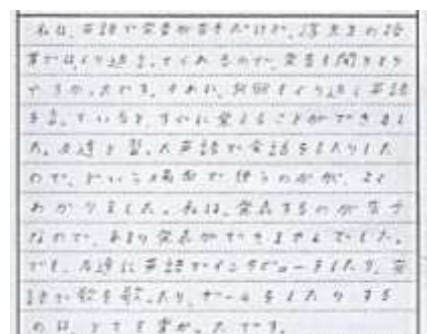


図 15 感想

図 19 授業後感想

あるように、単元を通して勝敗に拘らないアクティビティを多用するように心がけ活動を行った。
(5) アンケート考察

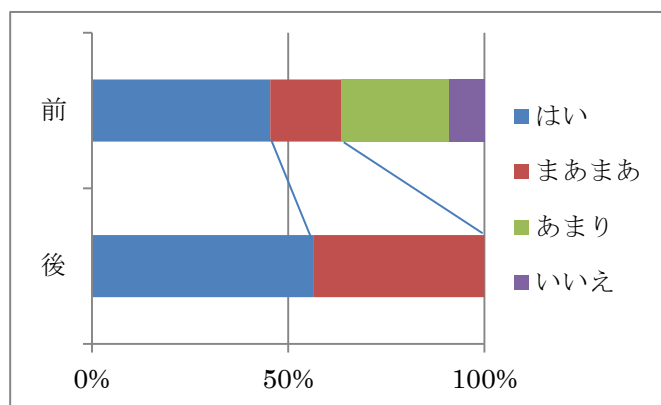


図 20 英語を聞き取れましたか。

授業前と授業後に同一アンケートを実施した。約 60% の子供が聞きとれたが、授業後は 100% の子が聞き取れるようになった。要因としてフラッシュカードや情報機器での単語練習を始めとした繰り返し練習による音声情報がインプット出来たためと思われる (図 20)。

約 40% の子供が想像出来ていたが、授業後は約 90% の子が出来たと答えている。要因として画像や寸劇等の状況設定に効果があったと思われる。しかし約 10% の子が出来ないと答えている。よりシンプルで分かりやすさが求められる (図 21)。

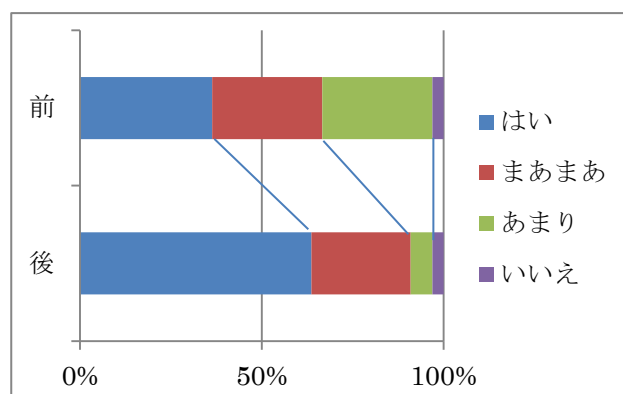


図 21 英語を使う場面を想像できましたか

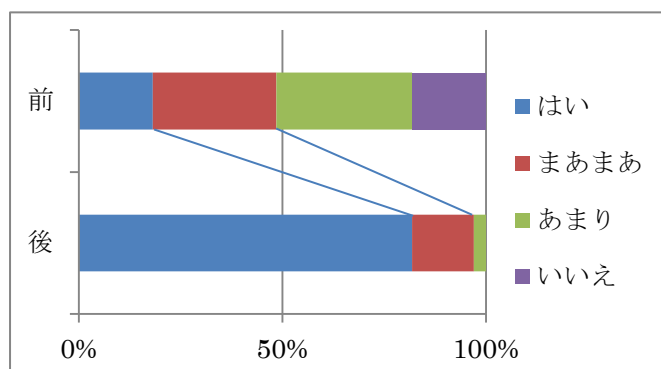


図 22 英語で質問できましたか

約 50% の子が英語で質問出来ていたが、授業後は約 95% の子が出来たと答えている。要因として単調な反復練習ではなく、変化のある繰り返し練習をしたことで、飽きずに取り組み質問出来るようになったのではないかと考える (図 22)。

約 65% の子が英語で答えを言うことが苦手と答えたが、授業後は 100% の子が言えると答えている。要因として質問同様、変化のある繰り返しで行ったが、質問の仕方より答え方に慣れ易かったのではないかと考える (図 23)。

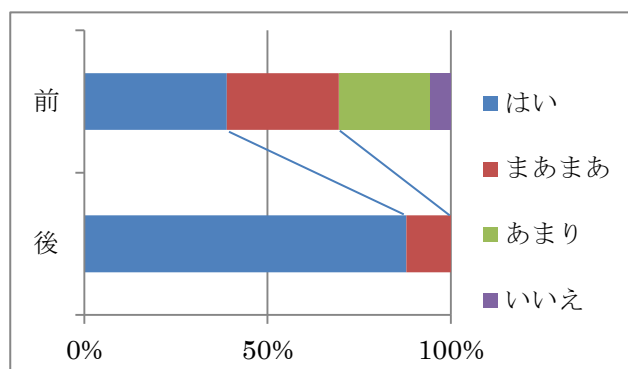


図 23 英語で答えを言えましたか

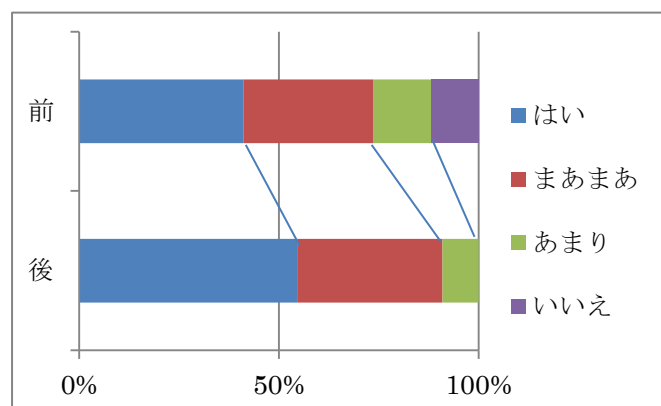


図 24 音の違いに気付くことができましたか

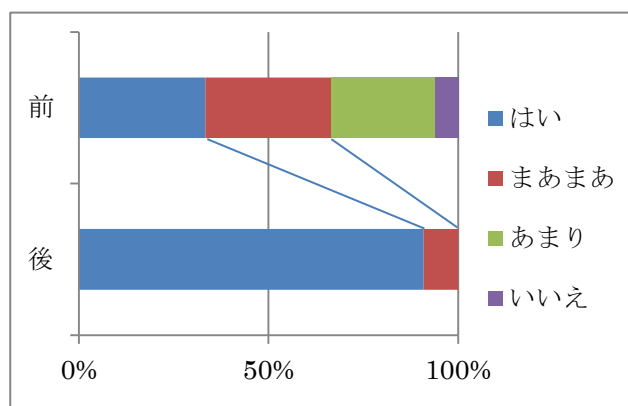


図 25 英語で友達との会話を楽めましたか

約 75%の子が日本語と英語の音の違いに気づくことが出来ていたが、授業後は約 90%の子が気づくことが出来たと答えている。要因として単語練習や表現に慣れ親しむ練習等、担任やALTの音声を何度も聞くことで、母国語との違いに気付くことが出来たのではないかと考える。また子供達に気づきをワークシート等にかかせ発表させたことは、学級全員で情報を共有できたのではないかと考えられる(図 24)。

約 70%の子が英語での会話を楽しめたと答えているが、授業後は 100%の子が楽しいと答えている。要因として状況下でのアクティビティがあげられる。会話の流れに沿った擬似状況を教師が設定し、その中で友達同士やりとりを行ったことが楽しさに繋がったのではないかと考えられる(図 25)。

(6) 教材・教具

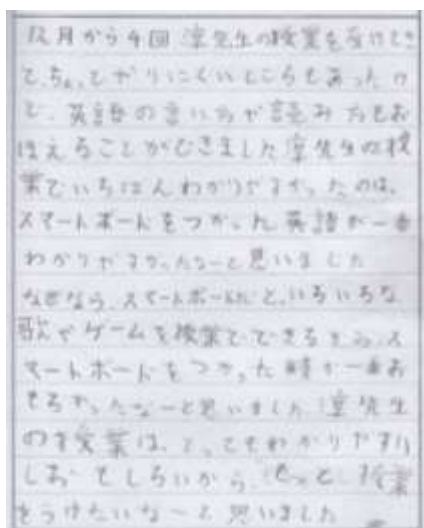


図 26 感想



図 27 シート



写真 14 情報機器



写真 15 カルタ

三構成法での指導過程で、教材・教具も随所に活用を試みた。(図 26)では、「スマートボード」使った授業が分かりやすかった」の記述が読み取れる。情報機器の使用は(写真 14)、視覚的にも三構成法を進める上で効果があったと考える。また今回、インタビューシート(図 27)、を始めとした各種シートも活用し、三構成法の状況下でのアクティビティで用いた。子供の記述にも「英語でインタビューするのは楽しかった」(図 15)、とあるので、友達同士とのやりとりをする楽しさの一因にもなったと考える。また学習した単語や、新出表現に楽しく慣れ親しませるためにカルタも取り入れた(写真 15)。

(7) 子供の記述から



図 28 感想

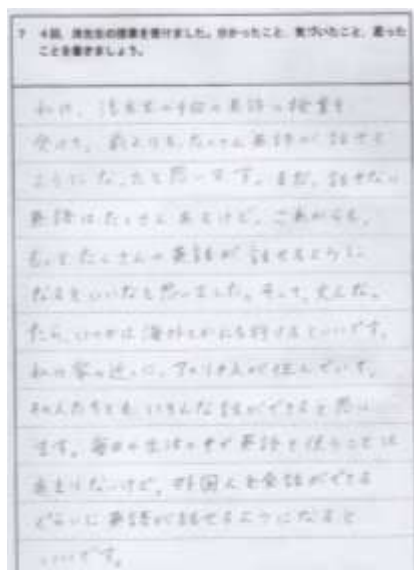


図 29 感想



図 30 感想

三構成法で指導した結果、4回の検証授業後の子供の感想からは様々な思いや気づきが読み取れる。(図 28)では「英語が苦手だったが、少しずつ英語が話せるようになった。英語の時間が待ち遠しい。」(図 29)では、「以前より英語が分かるようになって話せるようになった。」との記述がある。また学校の授業に留まらず、近所の外国人との交流や、海外への期待感も伺えることも読み取れる。(図 30)では「分かりやすく英語が学べた。ALTや担任ともっとコミュニケーションしたい」等の記述が見られ、子供達が積極的にコミュニケーションして関わり合いを持ちたい等の意欲が感じられる。

以上7項目を踏まえて、音声や基本的な表現に慣れ親しむ活動において、三構成法を取り入れることで、英語によるコミュニケーション能力の素地を養うことができるであろうと設定した具体仮説(2)は概ね有効ではないかと判断する。課題として、45分の授業の中で三構成法を用いて指導する際、ALTとの十分な話し合いや、授業での役割分担を決めて、緻密な連携をしていく必要があると考えられる。ネイティブの発音を効果的に利用するために、ALTを活用する場面を教師が明確に仕組むことが必要であると考えられる。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 45分の授業の組み立てをパーツを意識して組み立てることで、子供達が飽きることなく楽しく授業に参加することができた。
- (2) 音声や基本的な表現に慣れ親しむ場面では、英語による音声を何回も聞くことで、英語の音声に慣れ親しむことができた。
- (3) 新出表現を使用する状況設定の場において、画像提示やALTとの寸劇等を行うことで、日本語に訳さず意味理解させることができた。
- (4) 新出表現における答え方や尋ね方を練習する場面では、単調な反復練習でなく、変化を伴った繰り返し練習を行うことで、子供達が飽きずに答え方や尋ね方に慣れ親しむことができた。
- (5) アクティビティやゲームを行う前の場面において、ALTとデモンストレーションを行い提示することで、混乱なく活動を行うことができた。
- (6) 基本的な表現を使って友達とやりとりする場面では、インタビューシート等を使うことで、互いに尋ねたり答えたりしてコミュニケーションを行うことができた。

2 課題

- (1) ネイティブの発音をもっと効果的に活用する場面で、日本人の発音とのやりとりを仕組み、音の違いに気づかせていく。
- (2) 表現に慣れ親しむ練習の場面では、ALTの発音を効果的に用いることができず課題となった。
ALTと連携するうえで指導の方向性や授業での担任との役割分担を確認するための時間確保が求められる。
- (3) 消極的な子供は授業前に比べて減ったがまだ数名いる。この授業形態を継続していく中で、個別の支援の在り方について手立てを講じていく必要がある。
- (4) さらに興味・関心を高めるための指導工夫、教材、教具、英語教室の確保・整備が必要である。
- (5) 小学校では主に音声中心の活動(聞く・話す)を土台に授業を行っていくので、聞く・話す活動に十分に慣れ親しませることで、中学校での(読む・書く)活動に繋げていける。

〈主な参考文献・引用文献〉

- ・管正隆・大牟田市立明治小学校 2012 『“Hi, friends!” 指導案&評価づくりパーフェクトガイド』 明治図書
- ・向山浩子 2010 『「小学校英会話」子どもが英語を好きになる指導の究明』 東京教育技術研究所
- ・井戸砂織 2007 『T O S S 英会話セミナー指導案・レジュメ編』 東京教育技術研究所
- ・S. J. ブレイクモア・U. フリス 2006 『脳の学習力』 岩波書店
- ・山鳥重 2002 『「わかる」とはどういうことか』 ちくま新書